

# 散策の会

2023年6月 例会報告

# 行 田

6月27日（火） 曇り

- ★ 集合時間が8時45分なので、久しぶりに早起きをして、満員電車に乗って集合場所の池袋駅へ向かった。久々に参加された杉中さん夫妻、河合さんを含め16名が集合して賑やかな散策となった。

池袋駅発8時49分の湘南新宿ライン・高崎行きに乗車して約1時間、9時51分に行田駅に到着した。下りなので空いていたし、ボックスシートなのでゆっくり話も出来たので、あっという間の1時間であった。

- ★ 行田駅前のロータリーは閑散としていて、商店もほとんどない。黄色いユニフォームを着たサイクリングのグループが10人ほど集まっているのが目を引いたが、人影も疎らである。ただ蓮の花のシーズンなので、古代蓮見学に行くバスの停留所の前には既に行列が出来ていた。はなバスのような小さなバスなので、我々のグループは誰も座れなかった。のどかな田園風景の中を20分程走って“古代蓮の里”に到着した。



バスを待つ



行田市内循環バス

- ★ バスを降りると直ぐにピンクの蓮の花の群像が目に飛び込んできた。その美しさに思わず歓声上がるほどであった。広い蓮園なので2時間の自由行動として、ゆっくりと鑑賞してもらうこととした。



古代蓮池に咲く蓮

★ 行田蓮（古代蓮）は、昭和 46 年に公共施設の建設工事の際に、偶然出土した種子が自然発芽して蘇り、池に開花しているのが発見された。原始的な形態をもつ 1400～3000 年前の蓮と言われ、行田市の天然記念物に指定されている。6 月中旬から 8 月中旬にかけて、約 10 万株の濃いピンクの花が蓮池一面に咲き揃い圧巻である。また世界の蓮園には、40 種、2 万株の蓮が栽培されている。白蓮、紅蓮、爪紅蓮、斑蓮など多様な色、一重咲、八重咲の形態など、珍しい蓮が数多く見られる。



開花する前の古代蓮



開花しつつある古代蓮



開花した古代蓮



世界の蓮園に咲く蓮たち



★ 蓮園の一隅に、展示室、展望室、休憩所、研修室を備えた古代蓮会館がある。高さ 50m の展望室からは関東平野を取り囲む山々などの大パノラマを見ることが出来るというが、この日は曇り空のため遠くは霞んで見えなかった。蓮園に隣接する水田をキャンバスに見立てて、色彩の異なる稲を使い、絵や文字を表現する「田んぼアート」は、約 2.8 ヘクタールの大きさを誇り、「世界最大の田んぼアート」として、ギネス世界記録にも認定されている。6 月 10 日に田植えを行ってから約 2 週間が経ったので、展望室からは絵柄もはっきりと見え始めていた。今年のデザインは映画「翔んで埼玉Ⅱ」で、稲が成長するにつれて絵柄がはっきりしてくるので、7 月中旬から稲刈りの始まる 10 月中旬までが見頃だそうである。



「翔んで埼玉Ⅱ」の全体



中央の絵



左の絵

★ 思い思いに蓮園を散策したり、展望室に登ったり、食事などをして 12 時 45 分にバス停に集合したら、バス停には既に大勢の人が並んでいた。そこに我々 16 人が加わると全員がバスに乗れるかどうか分からない。暑い時期なのでバスを利用する予定でいたが、さきたま古墳公園までは約 2 km なので歩くことにした。ここで杉中夫妻と河合さんは我々と別れてバスで帰られた。

古代蓮の里の前の交差点を左折するとすぐ旧忍川遊歩道がある。この道の左手は背丈ほどもある葦の原っぱで、右手は田植えが終わったばかりの水田が広がっている。葦原はヨシキリの絶好の住処らしく、“ギョギョギョ”という鳴き声が賑やかである。水田の方からは蛙の鳴き声も聞こえてくる。トンボや蝶も飛び交っている。足元を見ればシロツメクサやアザミが一面に咲いている。暑い中を 30 分も歩くことになったが、都会では滅多に味わうことのできない自然の豊かさを感じることが出来て、「歩いて正解」であった。



旧忍川を渡る  
後方は古代蓮会館の展望塔



旧忍川遊歩道



地面を覆う小さな白い花  
イワキリソウ？

★ さきたま古墳公園へは東北の入口から入園することとなった。入口の目の前に稲荷山古墳がある。古墳時代後期の 5 世紀後半に造営された前方後円墳で、墳丘長 120m、後円部の直径 63m・高さ 10m、前方部の幅 82m・高さ 9m という大型の古墳である。国宝となっている金錯銘鉄剣や画文帯神獣鏡や勾玉などが出土している。円墳の上には埋葬施設の位置や埋葬の様子を書いた説明板があって興味深かった。



稲荷山古墳（東北側）



稲荷山古墳の埋葬施設の説明板



丸墓山古墳（東側）

★ 稲荷山古墳の隣に丸墓山古墳がある。直径 105m、高さ 17m の円墳で、円墳では全国 2 位の大きさである。石室内は未調査だが、埴輪などが出土している。築造年代は 6 世紀前半と考えられている。1590 年、豊臣秀吉の小田原征伐の時、忍城攻略を命じられた石田三成が、丸墓山古墳の頂上に陣を張り、忍城を水攻めにするために、丸墓山を含む 28 km に半円形の石田堤を築いた。丸墓山から真っすぐ南に伸びている道路は石田堤の名残である。小説「のぼうの城」は忍城水攻めを題材にしている。



石田堤跡

- ★ さきたま古墳公園には、將軍山古墳、二子山古墳、瓦塚古墳、鉄砲山古墳など、前方後円墳 8 基、大型円墳 2 基、方墳 1 基と小円墳があるが、登れるのは稲荷山古墳と丸墓山古墳だけである。また「埼玉県立さきたま史跡の博物館」があり、金錯銘鉄剣をはじめ、埼玉古墳群からの出土品が多数展示されている。

さきたま古墳は「埼玉県」の由来ともなっており、園内に「埼玉県名発祥の碑」が建っている。



- ★ 公園前 14 時 55 分発のバスに乗り、15 時過ぎに行田駅着。15 時 39 分発の列車に乗り、16 時 41 分に池袋に戻ってきた。



稲荷山古墳にて記念写真



専属カメラマン？

5人の俳人の方から俳句を頂きました。

大輪と 蕾触れ合う 古代ハス

一万歩 古墳登りて 汗ばみぬ

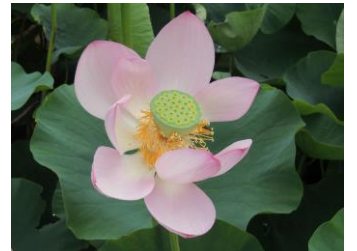
金子正男

二千年の 眠りに目覚め 行田蓮

忍城を 臨む円墳 溽暑かな

葎切りの 深き沼辺に かまびすき

志賀 勉



薄桃の 翳水面へと 古代蓮

忍川や 声どこまでも 行々子

夏霞 忍城うすら 丸墓山

桑田青三

蓮の葉の 自在に滑る 水の玉

葎(よし)切(きり)や 声の聞こゆる 葦の原

階を 上る古墳や 梅雨の空

辻 直邦



汚染の世清きに咲けし蓮の花

何千年 時経て咲くや 古代蓮

水野博司

参加者 馬道 哲、金子正男、河合宏則、桑田制三、小島恕雄夫妻、志賀 勉、杉中恒彦夫妻、  
辻 直邦、中村光毅、牧野昭夫、水野 聰夫妻、水野博司、関口和子 以上 16名

写真と文 小島恕雄

